

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470700541
法人名	株式会社 野添
事業所名	グループホーム洋光台
訪問調査日	平成21年10月21日
評価確定日	平成21年12月21日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1470700541		
法人名	株式会社 野添		
事業所名	グループホーム洋光台		
所在地 (電話番号)	神奈川県横浜市磯子区上中里町820番1号 (電 話) 045-778-6411		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月21日	評価確定日	平成21年12月21日

【情報提供票より】(21年9月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15人, 非常勤 0人, 常勤換算 13.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り 3階建ての3階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	61,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 夕食 円 または1日当たり 1,000円	昼食 円 おやつ 円	

(4) 利用者の概要(9月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低 72 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大久保クリニック、港南歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム洋光台は京浜急行線京急富岡駅から徒歩10分ほどの、バス停前にある。鉄筋3階建ての建物の1、2階部分は内科・整形外科の診療所であり、3階部分が事業所となっている。住宅街や団地に隣接しているが、緑が多く落ち着いた雰囲気である。
スタッフはほとんど常勤職員で構成され「認知症になっても普通の生活をおくる」の理念の下、家庭的な雰囲気の中で、介護が実践されている。
協力医療機関の内科医師の往診と看護師の訪問が週ごとに交互に行われている。また歯科医の毎週の訪問治療、医療保険による週3回の訪問マッサージが行われており、医療面は充実している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題は職員全員で話し合い、一部未実施の部分はあるものの、改善に向けて真摯に取り組んでいる。災害対策における非常食、飲料水の備蓄の確保などは既に改善済である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は法人代表と管理者によって作成された。評価の意義は法人の自主制作教育ビデオを通じて職員に説明されている。評価結果はミーティングで説明される。自己評価は職員全員で取り組み、改善課題を共有し、サービスの質の向上を目指して行くことを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は年3回、家族代表、地域住民代表(民生委員)、地域包括支援センター職員、法人代表、管理者、計画作成担当者の参加の下、開催されている。事前に提出された家族の要望事項に対する討議、事業所の利用状況や活動状況の報告などが中心に行われているが、今後は地域問題など議題の範囲を広げて行きたいとしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時には、管理者、職員が積極的に声を掛け、利用者の状態や事業所の状況を報告すると共に、意見や要望を引き出すようにしている。介護計画書を送付する際に、健康状態、薬の情報、アンケートを同封している。相談苦情対応マニュアルを整備し、玄関に意見箱を設置している。運営推進会議においても意見や要望を吸い上げ、出された意見や要望は、事業所運営に反映するよう努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 学童保育所主催の餅つき大会に入居者、職員が参加している。地域ボランティアの協力を得て演芸会を年3回、音楽会を年2回実施している。法人の自主制作ビデオ「認知症の理解と介護」などを地域に貸し出し、事業所のPRに努めている。法人代表、管理者は地域の町内会、自治会に働きかけ、地域交流の拡大に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念「認知症になっても普通の生活をおくる」を掲げ、家族的雰囲気の中で、利用者一人ひとりを大切に、地域生活の継続支援と、事業所と地域との関係強化を図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関脇の事務室や浴室の更衣室に掲示している。法人代表から職員へ、理念の取り組みについてのメッセージがFAXで送られ、管理者はその内容の徹底を図っている。管理者は日々のサービス提供場で、都度理念に触れ、職員を指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学童保育所主催の餅つき大会に入居者、職員が参加している。ボランティアによる演芸会を年3回、音楽会を年2回実施している。法人の自主制作ビデオ「認知症の理解と介護」などを地域に貸し出し、事業所のPRに努めている。町内会加入を希望し働きかけているが、施設居住者の加入例が無いなどの理由で未だ実現されていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は法人代表と管理者によって作成された。評価の意義は法人の自主作成教育ビデオを通じて職員に説明している。評価結果はミーティングで説明される。前回の改善課題は職員全員で話し合い、一部未実施の部分はあるものの、改善に向けて取り組んでいる。	○	自己評価は職員全員で取り組み、サービスの質の向上に結びつけていくことを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年3回開催されており、事業所の利用状況や活動状況の報告のほか、家族の要望事項などが議論されている。出席者は家族代表、地域住民代表(民生委員)、地域包括支援センター職員、法人代表、管理者、計画作成担当者である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人代表は積極的に区役所へ出掛けてホームの現状報告や情報交換をしている。地域包括支援センターからの入居希望相談に応じ、都度、情報交換をしている。市の地域密着型サービス事業者の研修や、市のグループホーム連絡会の研修に参加し意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、管理者、職員が積極的に声を掛け、利用者の状態や事業所の状況を報告している。介護計画書を送付する際に、健康状態、薬の情報、アンケートを同封している。日常の買い物や突発的な医療費は事業所で立て替え、領収書を添付し通常の請求と合わせて請求書を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には声を掛けて、意見や要望を引き出すようにしている。また相談苦情対応マニュアルを整備するとともに、玄関に意見箱を設置している。運営推進会議においても意見や要望を吸い上げるように努めている。出された意見や要望については、事業所運営に反映するよう努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット間での交流機会を多く設け、職員、利用者全員が顔馴染みの関係を築いている。このためどの職員が抜けても他の職員がカバーできる体制が整っている。職員は常勤者が多い。異動はほとんど無く、定着率も高い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員は3ヶ月間の入職時内部研修プログラムにより育成される。外部研修については、適材を管理者が指名し派遣する。法人が自主制作したビデオによる現任研修も計画的に行われている。介護福祉士取得が奨励されており、資格取得を支援する法人内研修を実施している。研修受講者は研修ノートを作成し、全職員に回覧して、情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県グループホーム協議会に加入し、研修会などを通じ交流を図っている。法人内の他のグループホームとの職員交換研修を実施している。法人内の在宅サービス事業所との情報交換も行われている。これらの交流を通じサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族のホーム見学、管理者の自宅訪問を経て、本人の納得を得た上で、入居を決めている。居室に空きがあればショートステイも受け入れることができる。入居初期は声掛けの頻度を多くし、きめ細かくケアしている。特に食事については注意深く観察し、まず食べることへの安心感を持ってもらうことに重点を置いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者はホーム内で、花の水やり、洗濯物たたみ、料理の手伝い、片づけなどの役割を持っている。職員は、戦争体験、編み物、料理の味付け、食材選びのコツなどを利用者から教えられ、都度感謝の意を表している。家庭的雰囲気の中で、共に支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時は利用者や家族から聴取したアセスメントを重視し支援している。入居後も定期的にアセスメントを実施し、利用者の意向の把握に努めている。意向を表すことが困難な利用者には、声掛けを通じ、その表情から読み取るなど意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員参加による月1度のケース会議で、介護計画書の作成、見直しを実施している。利用者、家族の意見を反映させると共に、主治医の指示・意見を取り入れ、総合的な介護計画としている。計画書は利用者家族に送付している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常3ヶ月に1回の介護計画の見直しを実施している。状態に変化が生じた場合は都度の見直しを実施している。医療機関の指示、家族の意思を反映すると共に、介護職員が作成した経過記録、業務日誌、アセスメントを参考資料とし、日常生活に即した介護計画としている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関の内科医師の往診と看護師の訪問が週ごとに交互に行われている。また当該クリニックとの契約の下、医療連携体制加算を受けている。歯科医の毎週の訪問治療、医療保険による週3回の訪問マッサージが行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は自由であるが、現在はほぼ全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。専門医等への通院には、家族が付き添うことを原則としているが、急を要する場合など必要に応じ職員による通院支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に利用者と家族に重度化した場合の「事業所の対応し得る範囲」について説明している。「私の家族シート」に利用者及び家族の「重度化、終末期に向けた希望」を記載してもらい職員間で共有している。ターミナルケアの職員研修も行われている。家族の協力、医療機関のサポートなどの条件が整う場合は、看取りにも取り組むとしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者へのさりげない声掛けにも気を配り、プライバシーの確保、羞恥心への配慮を心掛けている。浴室の更衣室は二重カーテンで仕切るなど細かい配慮がされている。利用者の個人情報を含む書類は各ユニットの事務所の書棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日、その時の利用者の気持ちを尊重し、できるだけ本人のペースに合わせた支援を行っている。大まかなスケジュールはあるが、それにこだわることなく、利用者の意向や希望を優先している。利用者の役割分担はあるが、気分が乗らないときは無理強いしない。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は職員と一緒に献立を決め、一緒に食材の買い出しに行き、できる範囲で、調理、片付けをしている。職員も同じものを利用者と一緒に食べている。食事介助の必要な利用者には、さりげなく声掛けをしながら、介助している。医師の指導により、とろみ、ミキサー食の対応も行われている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夏季は週3回、冬季は週2回の入浴を、午後の時間帯に行っている。通院などの理由で入浴できない場合はその時間帯以外でも入浴可能である。入浴したがい方には時間をおいて声掛けするなどの工夫をして、入浴を促している。必要によりシャワー浴の対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者はホーム内で、花の水やり、洗濯物たたみ、料理の手伝い、片づけなどの役割を持っている。誕生日会、七夕、クリスマスなど事業所内の行事が行われている。ボランティアによる演芸会を年3回、音楽会を年2回実施している。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しなど買い物に出かけている。散歩は日常的に行われており、車椅子の必要な利用者も職員が付き添い出かけている。学童保育所主催の行事に職員と共に参加している。少人数で花見に出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠せず、職員による見守りで対応し、鍵を掛けないケアを実践している。玄関にチャイムを取り付けているが、ユニット間の行き来の合図であり、監視用ではない。居室には鍵は付いていない。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力の下、年に2回防災訓練を実施している。また、夜間想定訓練も実施している。職員は救急救命・防火管理者研修を受講している。事業所内の火災報知器は消防署直結になっている。非常食、飲料水の備蓄がある。地域の協力については、未だ得られていない。	○	非常時に地域の協力が得られるように、防災訓練に地域住民の参加を求めるなど、働きかけていくことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は毎回記録している。協力医師、看護師から栄養状況のアドバイスを受け、補食の処方、高カロリー食の取り入れを行っている。職員に介護食士を配し、利用者の体調を見極めて、その体調に合わせたきめ細かい調理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングダイニングキッチンの造りになっており、職員が調理をする姿を見ることができ、また、煮物などの匂いが漂い家庭的な雰囲気を作り出している。玄関先のベランダに草花が植えられ季節感を演出している。玄関には正月飾りやクリスマスツリーなど季節感ある飾りが施される。掃除が行き届き清潔である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド、エアコン、照明、カーテン以外は事業所が設置した備品はなく、利用者と家族が自由にレイアウトしている。使い慣れたたんす、鏡台、マスコット、写真、仏壇等が自由に配置され、利用者が居心地良く暮らせる空間となっている。		